

エコノメトリックスII 宿題解答例(4)

2008年11月19日

Q. 2.17

FWL 定理を用いると、問題の回帰式の両辺に M_1 を掛けた式

$$\begin{aligned}M_1 y &= M_1 \mathbf{1} + M_1 X_2 \beta_2 + M_1 u \\ &= M_1 X_2 \beta_2 + M_1 u\end{aligned}$$

における β_2 の最小二乗推定量は、元の回帰式の β_2 の最小二乗推定量と一致する。したがって、

$$\hat{\beta}_2 = (X_2' M_1 X_2)^{-1} X_2' M_1 y$$

書き直すと、

$$X_2' M_1 X_2 \hat{\beta}_2 = X_2' M_1 y \quad (1)$$

となる。

次に、元の回帰式の回帰残差について考えてみよう。説明変数ベクトルと残差ベクトルは直行するので、以下の式が成立する。

$$\mathbf{1}'(y - \mathbf{1}\hat{\beta}_1 - X_2\hat{\beta}_2) = 0$$

この式は変形すると、以下のように書き換えることができる。

$$\mathbf{1}'\mathbf{1}\hat{\beta}_1 + \mathbf{1}'X_2\hat{\beta}_2 = \mathbf{1}'y \quad (2)$$

$\mathbf{1}'\mathbf{1} = n$ であるから、(1) 式と (2) 式をつなげて以下の等式を作ることができる。

$$\begin{aligned}n\hat{\beta}_1 + \mathbf{1}'X_2\hat{\beta}_2 &= \mathbf{1}'y \\ X_2' M_1 X_2 \hat{\beta}_2 &= X_2' M_1 y\end{aligned}$$

これは分割行列を使って以下のように表せる。

$$\begin{bmatrix} n & \mathbf{1}'X_2 \\ 0 & X_2' M_1 X_2 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} \hat{\beta}_1 \\ \hat{\beta}_2 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} \mathbf{1}'y \\ X_2' M_1 y \end{bmatrix}$$

これにより、設問の形で $\hat{\beta}_1$ と $\hat{\beta}_2$ を記述できることは明らか。

Q. 2.26

(2.56) の回帰は

$$\mathbf{y} = \mathbf{X}\boldsymbol{\beta} + \alpha \mathbf{e}_t + \mathbf{u} \quad (2.56)$$

であり、 \mathbf{e}_t は t 番目の要素が1、それ以外の要素が0のベクトルである。もし(2.56)のOLS残差 \hat{u} の t 番目の要素が0でなければ、0にするように α を変えることで残差二乗和を減らすことができる。なぜなら α の値は t 番目の要素にのみ作用するので、他の残差には影響しないからである。よって、もし $\tilde{\alpha}$ と $\tilde{\beta}$ が(2.56)の回帰の最小二乗推定量ならば、 $\tilde{\alpha} = \mathbf{y}_t - \mathbf{X}_t \tilde{\beta}$ である。

上から、 t 番目の観測値を除いた場合の t 番目の残差における変化は $\tilde{\alpha} - \hat{u}_t$ だということがわかる。(2.62)、すなわちFWL定理により、 $\tilde{\alpha}$ は $\hat{u}_t / (1 - h_t)$ と等しい。(ここで、 h_t は $P_{\mathbf{X}}$ の (t, t) 要素である。)

よって

$$\tilde{\alpha} - \hat{u}_t = \frac{\hat{u}_t}{(1 - h_t)} - \hat{u}_t = \hat{u}_t \frac{h_t}{1 - h_t}$$

となり、問いの証明となる。